

－大学院美術研究科博士（後期）課程の教育・研究目的－

美術研究科博士（後期）課程は、専門分野についての理論的な考察と実践によって次世代を担う芸術家及び研究者を養成し、また高度な創造と研究を通して、国内外の芸術文化に貢献することを目的とします。

◆アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

美術研究科博士（後期）課程は、以下のような人を求めています。

- 1 芸術に関する専門性を持ち、芸術および文化に対して幅広い興味、深い理解を有する人
- 2 独自の表現と研究方法による、芸術と世界との新たな関係性の創造に意欲的である人
- 3 研究成果を社会に発信する能力の確立に積極的である人

◆カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

美術研究科博士（後期）課程は、以下を目的としたカリキュラムを編成し、実施します。

- 1 領域を横断する本学独自の開かれた「創造の現場」を通じた深い専門性の探究
- 2 創造および研究の実践に必要な高度な専門的知識や技術の教授
- 3 創造および研究活動を、積極的に社会に発信する能力の養成

◆ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

美術研究科博士（後期）課程は、修了時までに達成すべき目標を以下のとおりとします。

- 1 あまねく芸術、文化、社会に関する事象から導かれる高度な専門性の修得
- 2 尖鋭な視点と広範な視野に基づく、新たな地平を創造し得る表現や研究方法の確立
- 3 創造および研究活動の成果を社会に発信、展開し、新たな芸術文化の牽引者たり得る能力の修得

1 募集人員

美術研究科 博士（後期）課程

標準修業年限 3年

専 攻	研 究 領 域	募 集 人 員
美 術	日 本 画 油 画 版 画 構 想 設 計 彫 刻 ビジュアル・デザイン 環 境 デ ザ イ ン プ ロ ダ ク ト ・ デ ザ イ ン 陶 磁 器 漆 工 染 織 産 業 工 芸 ・ 意 匠 保 存 修 復 芸 術 学	16名

注1 出願は、一つの研究領域に限る。

2 上記募集人員には、社会人特別選抜及び外国人留学生（若干名）を含む。

2 出願資格（一般選抜） 注（1）～（8）のいずれかに該当する必要があります。

- (1) 学校教育法第104条第1項の規定により修士の学位または専門職学位を有する者及び平成30年3月までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設または国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
- (8) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、平成30年3月31日までに24歳に達する者

注 出願資格(8)の資格認定を希望する者は、出願資格認定審査等の手続を要するため、「4 資格認定希望者提出書類」を参照し、必要な書類を期限までに提出してください。

3 特別選抜（社会人及び外国人留学生）

特別選抜とは、大学院における専門教育の開放と交流を目的とし、一般選抜の学力検査のうち語学試験を免除するもので、前項2の出願資格のいずれかに該当する外国人留学生及び前項2の出願資格のいずれかに加えて下記の(1)～(3)のいずれかに該当する社会人を対象とする。

- (1) 出願時において各種の企業、研究機関又は教育機関に、正規職員として勤務し、入学後もその身分を有し、所属長より推薦を受けた者
- (2) 出願しようとする研究領域に関連した職種に3年以上の勤務経験を有すると本学大学院が認めた者
- (3) 出願しようとする研究領域に関連した創作活動を3年以上行っていると本学大学院が認めた者

注 特別選抜による受験を希望する者は、出願資格認定審査等の手続を要するため、「4 資格認定希望者提出書類」を参照し、必要な書類を期限までに提出してください。

4 資格認定希望者提出書類

出願資格2(8)及び特別選抜に該当する者は、出願資格認定審査等の手続のため、平成29年12月15日(金)〔必着〕までに連携推進課入試担当へ下記の書類を郵送又は配送すること（持参不可）。封筒表面に「美術研究科特別選抜希望」と朱書してください。結果は平成30年1月17日（水）までにお知らせします。

- 〔提出書類〕
- 履歴書(卒業・修了後の経歴を具体的に記載したもの。押印のうえ、写真を貼付)
 - 業績書(志望研究領域、著書、論文、展覧会出品歴、受賞歴等を記載したもの)
(A4縦長・横書)
 - 所属長の推薦書(特別選抜(1)に該当する者のみ)
 - 日本語能力証明書(外国人留学生のみ)
(公的機関又は学習した機関による証明書。学習期間が記載され、読む能力、書く能力、話す能力ごとにレベルのわかる内容のもの)

5 出願手続

- (1) 受付期間 平成30年(2018年)1月22日(月)～1月25日(木)
〔期間中の消印を有効とします。宅配の場合は、期間中の受付日が記載されているものを有効とします。〕
- (2) 出願方法 下記提出書類一式を必ず簡易書留・速達で郵送、又は宅配業者により配送してください。(直接大学に持参されても受け付けません。)封筒の表に「美術研究科博士(後期)課程入学願書在中」と朱書きしてください。
- (3) 送り先 〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6
京都市立芸術大学連携推進課入試担当
TEL 075-334-2238
- (4) その他 志願者は出願期間前に、志望研究領域の教員と連絡を取り、研究内容等について相談することが望ましい。

6 出願書類等

- (1) 入学願書（本要項に綴り込んであるものを使用する）
記入する氏名は戸籍名と同一のこと。外国籍の場合は、住民票の写しに記載されている氏名と同一のこと。その他の提出書類についても同様とします。
- (2) 成績証明書
修士課程（又はそれに相当する課程）における成績証明書
- (3) 修士課程（又は博士前期課程）修了（また修了見込）証明書
- (4) 写真
出願前3ヶ月以内に撮影した上半身・無帽・正面向きのもの2枚（4cm×3cm）を受験者写真票及び受験票に貼付してください。
- (5) 入学考査料 17,000円
ア 綴り込みの「郵便振替払込用紙」により、郵便局窓口（ATMからの払い込みは不可）へ払い込んでください。（手数料）
イ 払込みと同時に郵便局より交付される「郵便振替払込受付証明書」を提出してください。
ウ 願書提出後、考査料は一切返還しません。
- (6) 返信用封筒
綴り込みの定形封筒（長形3号）の宛名に志願者の郵便番号、住所、氏名を記入し、672円分の切手（簡易書留・速達）を貼付してください。
- (7) パスポートの写し（外国人留学生のみ）
外国人留学生（本学研究留学生を含む）は、パスポート（顔写真のあるページ）の写しを提出してください。

- 注1 本学修士課程修了者及び修了見込者は、上記（2）及び（3）を提出する必要はありません。
- 2 各種証明書等と現在の姓が異なる場合は、改姓の事実が確認できる証明書等（戸籍抄本や運転免許証の写し等）を添付すること。
 - 3 英語以外の外国語で記載された書類を提出する場合は、日本語訳を添付すること。出願者が訳したものでも構いません。
 - 4 官公庁その他会社等に在職中又は現在他大学の大学院に在籍中の者は、出願前に勤務先又は在籍する大学院の学長の受験許可が必要な場合がありますので、勤務先又は在籍する大学院の規程等を十分に確認のうえ出願してください。

7 受験票

提出書類を完備し、上記の出願手続を行った者には、本学から受験票を送付します。
受験票が平成30年2月23日（金）までに到着しない場合は、連携推進課入試担当まで電話で問い合わせてください。

8 試験会場 京都市西京区大枝杵掛町13-6 京都市立芸術大学

9 試験日程及び選抜試験内容等

(1) 試験日程及び選抜試験内容

[全研究領域]

試験日時		試験の内容等
3月3日(土)	10:00~11:00	語学試験(共通)※辞書持込不可 英語, フランス語から1か国語選択
	12:30~	口述試験(各研究領域にて)

注1 受験の詳細については、事前に受験票とともに郵送によりお知らせします。

- 2 語学試験については、30分以上遅刻した場合は受験資格を失います。口述試験については、原則として遅刻は認めません。
- 3 課せられた試験(作品及び論文の提出を含む)のうち一つでも受験しなかった場合は失格となり、以降の試験の受験資格を失います。
- 4 社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜資格認定者については、語学試験を行いません。
- 5 入学試験当日に受験できなかった場合、追試験等の特別措置及び入学考査料の返還は行いません。
- 6 学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症(インフルエンザ、麻疹、水痘等)に罹患し治癒していない場合又は罹患した疑いがある場合は、他の受験生や監督者等への伝染の恐れがありますので、原則として受験をご遠慮願います。ただし、症状により医師が伝染の恐れがないと認めた場合は、この限りではありません。

(2) 作品及び論文の提出

提出小論文〔全研究領域共通内容〕

以下の各項目について述べよ。

- (1) これまでの制作・研究をふまえて、現段階での研究テーマと問題意識
(研究テーマと関連する写真図版3点以内を含めること) 2000字以上
- (2) 博士課程3年間の制作・研究の計画
(各年次ごと具体的に) 2000字以上

各研究領域の提出物内容

研究領域	小論文・論文・作品ファイル		作 品	
	日 時	小論文等の内容、作品ファイルの規格等	日 時	作品の内容、規格等
日本画	出願時 1/22(月)~ 1/25(木)	・小論文(提出部数: 3部) (1) } 上記, 全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・作品ファイル 可能な限り右記提出書類を含むものとする。	3/3(土)	作品3点(100号~150号) (過去2年以内に制作したもの) 提出作品についてのデッサン, 素描, スケッチ等 20枚
	送付のみ 持参不可		搬入日時	3/3(土) 時間帯は受験票送付時に指示
			搬出日時	3/3(土) 口述試験終了後

研究領域	小論文・論文・作品ファイル		作 品	
	日 時	小論文等の内容、作品ファイルの規格等	日 時	作品の内容、規格等
油 画	出願時 1/22(月)～ 1/25(木) 送付のみ 持参不可	・小論文（提出部数：３部） （１） } 上記，全研究領域共通 （２） } 内容について述べよ。 ・ポートフォリオ 1冊 〔作品写真 ファイル，ドローイングなどA1 (594mm×841mm) 以内〕	3/3（土）	作品 5 点（227cm × 182cm 以内） （過去 5 年以内に制作したもの）
			搬入日時	3/3（土） 時間帯は受験票送付時に 指示
			搬出日時	3/3（土） 受験者全員の口述試験終 了後
版 画	出願時 1/22(月)～ 1/25(木) 送付のみ 持参不可	・小論文（提出部数：３部） （１） } 上記，全研究領域共通 （２） } 内容について述べよ。	3/3（土）	作品10点を JPEG 形式でCD-ROM 等にして提出（過去 2 年以内に制作 したもの）
			搬入日時	3/3（土） 時間帯は受験票送付時に 指示
			搬出日時	3/3（土） 口述試験終了後
構想設計	出願時 1/22(月)～ 1/25(木) 送付のみ 持参不可	・小論文（提出部数：３部） （１） } 上記，全研究領域共通 （２） } 内容について述べよ。 ・作品写真及び写真資料（５点以 内）	3/3（土）	DVD，CD-ROM のいずれかのメデ ィアにまとめたもの(30分以内)
彫 刻	出願時 1/22(月)～ 1/25(木) 送付のみ 持参不可	・小論文（提出部数：３部） （１） } 上記，全研究領域共通 （２） } 内容について述べよ。 ・作品写真ファイル （過去 5 年以内に制作したもの）	3/3（土）	映像による提示が必要であればメ ディアを持参すること。(DVDプレ イヤー，プロジェクターはこちら で用意します)
ビジュアル・ デザイン	出願時 1/22(月)～ 1/25(木) 送付のみ 持参不可	・小論文（提出部数：３部） （１） } 上記，全研究領域共通 （２） } 内容について述べよ。 ・ポートフォリオ（A2 サイズまで） 又は論文3点	3/3（土）	作品 3 点以上 （過去 5 年以内に制作したもの）
			搬入日時	3/3（土） 時間帯は受験票送付時に 指示
			搬出日時	3/3（土） 口述試験終了後
環 境 デザイン	出願時 1/22(月)～ 1/25(木) 送付のみ 持参不可	・小論文（提出部数：３部） （１） } 上記，全研究領域共通 （２） } 内容について述べよ。 ・ポートフォリオ（A3 サイズ）」	3/3（土）	作品 3 点以上
			搬入日時	3/3（土） 時間帯は受験票送付時 に指示
			搬出日時	3/3（土） 口述試験終了後
プロダクト・ デザイン	出願時 1/22(月)～ 1/25(木) 送付のみ 持参不可	・小論文（提出部数：３部） （１） } 上記，全研究領域共通 （２） } 内容について述べよ。 ・ポートフォリオ（A3 サイズ）又 は論文3点	3/3（土）	作品 3 点以上 （過去 5 年以内に制作したもの）
			搬入日時	3/3（土） 時間帯は受験票送付時 に指示
			搬出日時	3/3（土） 口述試験終了後

研究領域	小論文・論文・作品ファイル		作 品	
	日 時	小論文等の内容、作品ファイルの規格等	日 時	作品の内容、規格等
陶 磁 器	出願時 1/22(月)～ 1/25(木) 送付のみ 持参不可	・小論文（提出部数：3部） (1) } 上記、全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・作品写真ファイル 著書、論文があれば添付のこと。	3/3（土）	作品3点以上 (過去2年以内に制作したもの)
			搬入日時	3/3（土） 時間帯は受験票送付時に指示
			搬出日時	3/3（土） 口述試験終了後
漆 工	出願時 1/22(月)～ 1/25(木) 送付のみ 持参不可	・小論文（提出部数：3部） (1) } 上記、全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・作品写真ファイル 著書、論文があれば添付のこと。	3/3（土）	作品3点 (過去2年以内に制作したもの)
			搬入日時	3/3（土） 時間帯は受験票送付時に指示
			搬出日時	3/3（土） 口述試験終了後
染 織	出願時 1/22(月)～ 1/25(木) 送付のみ 持参不可	・小論文（提出部数：3部） (1) } 上記、全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・作品写真ファイル 著書、論文があれば添付のこと。	3/3（土）	作品3点 (過去2年以内に制作したもの)
			搬入日時	3/3（土） 時間帯は受験票送付時に指示
			搬出日時	3/3（土） 口述試験終了後
産業工芸・ 意 匠	出願時 1/22(月)～ 1/25(木) 送付のみ 持参不可	・小論文（提出部数：3部） (1) } 上記、全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・作品写真ファイル又は論文・ 著作3点及びその題目リスト 可能な限り右記提出作品を含む ものとする。	3/3（土）	作品3点
			搬入日時	3/3（土） 時間帯は受験票送付時に指示
			搬出日時	3/3（土） 口述試験終了後
保存修復	出願時 1/22(月)～ 1/25(木) 送付のみ 持参不可	・小論文（提出部数：3部） (1) } 上記、全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・作品写真ファイル又は論文 ※論文について (ア) 修士課程を修了した者、又は修了見込の者は、修士論文の写しを提出のこと。 なお、修士課程を修了した者は、修了後の研究成果、若しくはそれをまとめたもの（20,000字以内）を添付してもよい。 (イ) 上記以外の者は、30,000字以上の論文・著作、又はその写しを提出のこと。 (ウ) (ア) 又は (イ) のレジュメを（4,000字程度）添付のこと。 ※本学修士課程修了者及び修了見込の者は、修士論文の写しの提出を要しない。	3/3（土）	模写作品2点 (過去2年以内に制作したもの) ※論文提出者は不要
			搬入日時	3/3（土） 時間帯は受験票送付時に指示
			搬出日時	3/3（土） 口述試験終了後

研究領域	小論文・論文・作品ファイル	
	日 時	小論文等の内容、作品ファイルの規格等
芸 術 学	出願時 1/22(月)～ 1/25(木)	・小論文（提出部数：3部） (1) } 上記、全研究領域共通 (2) } 内容について述べよ。 ・論文 (ア) 修士課程を修了した者、又は修了見込の者は、修士論文の写しを提出のこと。 なお、修士課程を修了した者は、修了後の研究成果、若しくはそれをまとめたもの（20,000字以内）を添付してもよい。 (イ) 上記以外の者は、30,000字以上の論文・著作、又はその写しを提出のこと。 (ウ) (ア)又は(イ)のレジュメを（4,000字程度）添付のこと。
	送付のみ 持参不可	※本学修士課程修了者及び修了見込の者は、修士論文の写しの提出を要しない。

ア 論文、小論文はA4サイズとし、必ず表紙をつけて、表題・氏名・志望研究領域を明記してください。

イ 論文、小論文、作品写真ファイル、その他の著作物については、必ず出願受付期間内に送付してください。直接持参されても受領しません。

ウ 3月3日(土)に提出及び引き取りを行う作品については、配送業者を利用する場合でも、当日に必ず本人が立ち会って行ってください。搬入・搬出場所及び時間帯については、受験票発送時に指定します。前日までに宅配便等で送付しても受領しません。

(3) 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査（作品、論文、語学、口述）、提出書類を総合して行います。

〔参考〕過去3年間の語学の試験問題は、祝日を除く月曜日から金曜日の午前9時から午後5時までの間に限り、連携推進課入試担当事務室において閲覧することができます。

また、過去1年間の語学の試験問題は、著作権法上の関係により掲載できないものを除いて、本学ホームページ（<http://www.kcua.ac.jp/>）でも掲載しています。

なお、電話・文書等による照会には一切応じません。

10 合格発表

平成30年（2018年）3月7日（水）午後3時（予定）に本学正門前に掲示し、合格者には文書で通知します。

なお、合格発表日の午後4時（予定）から約1週間、本学ホームページ（<http://www.kcua.ac.jp/>）に合格者の受験番号を掲載します。ただし、本学内における掲示による発表及び合格通知書の発送をもって正式な合格発表とします。電話による問い合わせには一切応じません。

注 本学ホームページへの合格者の受験番号掲載は、情報提供の一環として行うものであり、その安全性を保障するものではありません。

11 入学手続

合格者は、次のとおり入学手続を行ってください。詳細は合格通知書と共に送付します。

- (1) 入学手続期間 平成30年(2018年) 3月中旬
- (2) 場 京都市立芸術大学連携推進課入試担当事務室
- (3) 入学料の納付 市内出身者 282,000円
 市外出身者 482,000円

注 市内出身者とは、入学前年の4月1日以前から引き続き京都市内に居住し、住民票の写しにより証明される者。

- (4) 誓約書の提出（正・副保証人）

- (5) 入学料以外の納付金

学生教育研究災害傷害保険料 2,600円（3年間分）

学研災付帯賠償責任保険料 1,020円（3年間分）

美術教育後援会費 50,000円（3年間分）※本学出身者は30,000円, 留学生は払込不要

同窓会入会金 15,000円 ※本学出身者及び留学生は払込不要

〔参考〕授業料 年額535,800円（前期、後期に分割納入することができます）

注 上記の入学料及び授業料は、平成29年度入学者の場合であり、料金の改定があった場合は、合格者に通知します。

12 個人情報の取り扱いについて

独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（以下「個人情報保護法」という。）に基づき本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報の利用については、入学者選抜に係わる業務のほか、次のとおりです。

- (1) 利用目的について

ア 合格者の住所・氏名等の個人情報を入学手続に係わる業務で利用します。

イ 入学手続者の住所・氏名等の個人情報を入学後の学籍管理等の修学に係わる業務並びに健康診断等の保健管理に係わる業務で利用します。

ウ 入学手続者の住所・氏名等の個人情報を入学料並びに授業料徴収等の納付金管理に係わる業務で利用します。

エ 入学者選抜で取得した成績等の個人情報を1年次における授業料減免及び奨学生選考等の修学支援に係わる業務で利用します。

オ 入学者選抜で取得した成績等の個人情報を個人が特定できない形で統計処理等の付随する業務及び入学案内業務並びに本学における入学者選抜に関する調査研究で利用します。

- (2) 第三者への個人情報の提供について

本学が取得した個人情報は、「個人情報保護法」第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

ただし、次の場合必要最低限の情報を提供することがあります。

- ア 上記（1）ア～オの個人情報を取り扱う業務を、個人情報の適切な取り扱いに関する契約を締結したうえで、外部の事業者へ委託する場合
- イ 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うために、合格及び入学手続等に関する個人情報（氏名及び大学入試センター試験の受験番号に限る）を独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達する場合
- ウ 本学の教育後援会、同窓会に情報提供する場合（合格者のみ）

13 美術研究科博士（後期）課程の概要

本博士（後期）課程は、日本の古都・京都にあって、日本の美術教育・研究の先進的中核を担ってきた京都市立芸術大学に属する高度の美術専門研究課程である。千二百年を越える芸術文化の創造的伝統が高度に集積する京都という立地条件を背景に、最高水準の研究教育の場を提供する組織として、各領域の専門的研究とともに領域を横断する知的芸術的交流を促進すると同時に、現代社会の大きな変化をふまえ、国際交流および地域社会との交流を重視している。

本博士（後期）課程の基本構想は以下の4つの柱からなる。

（1）専門的研究が出会い、深化する場

本課程は、第一に、大学院修士課程等において獲得した専門的技能及び知識を、広い視野を持ってさらに深化拡充する場として位置づけられている。この目的のため、専門研究を担う14の専門領域を設けてそれぞれ独自の研究教育をすすめるとともに、全領域を美術専攻として単一組織にまとめてひとつの独立棟に配し、空間的・物理的にも交流が容易となるように工夫している。また、カリキュラム上でも相互交流と広領域的なアプローチをサポートする科目を提供する。

（2）国際的な芸術教育・研究の場

本課程は、第二に、芸術研究における高度な国際交流の場として構想されている。長い歴史の中で伝統と革新がつねに共存してきた世界的にも希有な京都という古都にあって、世界に開かれた広い視野をもって次世代の芸術文化創造を担う人材を育成するため、外国人留学生に対しても特別入試を実施し、また交換留学プログラムや客員研究員の受け入れ等、国際的な芸術的学術的交流を推進する。

（3）社会人再教育の場

本課程は、第三に、すでに社会人として活動している美術家・工芸家・企業等に属するデザイナーおよび研究機関等に属する美術研究者に対し、高度な水準での研究・研鑽を行う場を提供する。これは、個々の制作者・研究者それぞれが新たな研究展開をはかるとともに、彼らが活動する社会や所属する機関にその知見を還元し、創造的活力を高める上でも重要な意味を持つ。この目的のため、社会人に対して特別入試を実施する。

（4）芸術と社会の交流の場

本課程は、第四に、社会や地域に開かれた高度な芸術研究機関として、展覧会やワークショップ、公開講座、地域の芸術関連産業等に対する相談事業、産学共同研究などを通して、研究成果を社会に積極的に公開する。

14 履修課程及び修了要件

履修課程

履修区分	授 業 科 目	履 修 単 位		
		小 計	中 計	合 計
必修科目	総合制作・理論演習	2	3	11
	造形計画論研究	1		
	研究領域研究指導			
選択必修科目	領域研究演習	8	8	

〔履修方法及び修了要件〕

必修科目のうち、「総合制作・理論演習」及び「造形計画論研究」2科目計3単位、選択科目から「領域研究演習」8単位以上を修得し、「研究領域研究指導」により博士論文等を作成・提出して、審査及び最終試験に合格すること。

15 授業等の内容

(1) 総合制作・理論演習（ゼミ形式での演習発表）

本演習は、学生各自の専門テーマを深化発展させるとともに、領域を超えた交流の場として、制作理論上の新たな展開を促すことを目的としている。学生は、指導教員を含む他の教員、学生等の前で自己の研究成果を発表し、ディスカッションを行う。博士課程在籍中に学生は2回の発表を行わねばならず、特に2回目は学位申請に向けて重要な意味を持つ。

(2) 造形計画論研究

博士課程担当教員が分担して毎週1回の授業を受け持ち、各専門領域ないし広領域の芸術上の諸問題について講義やディスカッション等を行う。また論文作成技術等に関する講義も組み込まれ、レポートが課される。

(3) 研究領域研究指導（博士論文・作品指導）

各学生に応じた指導スタッフが確立され、作品制作を含めて、博士論文等を作成するために必要な研究指導がなされる。学生は定期的に研究計画書と研究報告書を提出することが義務づけられている。

(4) 領域研究演習（専門研究）

各学生がそれぞれの研究領域において自己の研究を展開していくための演習であり、主任指導教員を中心に、その研究領域に属する他の教員も副指導教員として加わって指導に当たる。学生は半期ごとの授業を4回（8単位）履修するが、それぞれの内容に応じて副指導教員を変更することもできる。

職名については平成29年9月1日現在

☆印は、平成31年(2019年)3月31日に定年退任予定の教員を示す。

☆☆印は、平成32年(2020年)3月31日に定年退任予定の教員を示す。

研究領域・担当教員	研 究 指 導 内 容
日本画 浅野 均 教 授☆☆ 日影 圭 教 授 川嶋 渉 准教授 小島 徳朗 准教授 (着 任 予 定)	日本画の技術と理論の研究を通して日本画の創作を研究する。伝統的基盤を踏まえ、技法及び理論面での高度の研鑽を積み、新たな日本画の創造をはかる。 ● 日本画制作一般、並びに構図法、紙本膠彩技法による制作研究 ● 日本画制作一般、並びに紙本膠彩技法によるマチエールの研究 ● 日本画制作一般、並びに紙本膠彩技法による表現研究 ● 岩彩表現における、多元的可能性考察に基づく制作研究
油画 Simon Fitzgerald 教 授 石原 友明 教 授 赤松 玉女 教 授 渡辺 信明 教 授 法貴 信也 准教授 金田 勝一 准教授 伊藤 存 准教授	油画を中心とした技術による実技と理論の研究を通して絵画の創作を研究する。絵画表現の理論研究とともに、目的に応じた絵画材料や基底材(壁面を含む)の使用法について広汎かつ高度な研究を行い、新たな絵画世界の創造をはかる。 ● 絵画を中心とした技法による作品制作研究 ● 絵画(映像を含む)を中心とした現代的な表現による作品制作研究 ● 絵画(壁画を含む)を中心とした技法による作品制作研究 ● 絵画を中心とした技法による作品制作研究 ● 絵画を中心とした技法による作品制作研究 ● 絵画を中心とした技法による作品制作研究 ● 絵画を中心とした技法による作品制作研究
版画 出原 司 教 授☆ 大西 伸明 准教授 吉岡 俊直 准教授	版画の諸技法と理論の研究を通して版画の創作を研究する。「版」特有の表現方法の研究とともに、技法の広汎かつ高度な研究を行い、新たな「版」表現の創造をはかる。 ● リトグラフ及び描画技法等全般の制作研究 ● 銅版画及び併用技法・混合技法に着目した作品制作研究 ● コンピューティング・プロセスを基盤に、シルクスクリーンによる制作研究
構想設計 砥綿 正之 教 授 高橋 悟 教 授 石橋 義正 准教授	映像、コンピュータ、音響などを含む表現媒体を用いたメディア・アートの創作を研究する。表現媒体としてのメディアそのものの理論的考察を踏まえ、現代的な多様なメディアについて広汎かつ高度な研究を行いつつ、新たな表現世界の創造をはかる。 ● 映像、コンピュータ等を用いたメディア・アートの制作研究 ● 造形メディアによる芸術表現全般の問題をふまえ、身体、空間、時間等を用いた制作研究 ● 映画・映像作品、舞台、パフォーマンスの研究

研究領域・担当教員	研 究 指 導 内 容
彫刻 中ハシクシゲ 教 授☆☆ 松井 紫朗 教 授 中原 浩大 教 授 小山田 徹 教 授 金氏 徹平 講 師	彫刻の実技と理論の考察を通して、彫刻の創造研究を行う。空間的、立体的表現に関する理論の研究とともに、表現意図に応じた素材、技術の広汎かつ高度な研究を行い、空間や立体に作用する諸要素も計測に入れて、新たな彫刻表現の創造をはかる。 ● 彫刻の特に制作に関わる場と時間から、歴史や文化との接点を見出し、その関係性の中から芸術の意味を探る制作研究 ● 彫刻における複数の視点による空間の分節化と、それらに関係づける媒体の制作研究 ● 現代の社会における芸術活動の“Another Model”についての彫刻領域及び脱領域的アプローチによる制作研究 ● 共有空間をキーワードに、様々な場の開発を研究 ● 現代社会における空間や事物の新たな関係性についての制作研究
ビジュアル・デザイン 辰巳 明久 教 授 滝口 洋子 教 授 楠田 雅史 教 授 舟越 一郎 准教授	人間社会における視覚を中心とした情報伝達に関し、表現・理論の両面から広汎かつ高度な実践的的制作研究を行う。 ● グラフィックデザイン全般とデジタルコンテンツの活用に関する制作研究 ● ファッション、テキスタイルデザインに関する制作研究 ● グラフィックデザイン全般とグラフィックインテリアへの展開に関する制作研究 ● グラフィックデザイン全般に関する制作研究
環境デザイン 堀口 豊太 教 授 藤本 英子 教 授 坂東 幸輔 講 師	環境デザインにおける歴史、理論、事例の研究を行う。長期に渡って存続可能な環境のあり方を詳しく検証する。 ● 建築デザイン、インテリア・デザイン、商環境デザインに関する研究 ● 広域的な景観から、公共空間を中心とした身近なまちづくりまで、地域と結びついた環境デザインを人、経済、社会との関連から研究 ● 建築、リノベーション、古民家再生、空き家を活かしたまちづくりに関する研究
プロダクト・デザイン 塚田 章 教 授☆ 高井 節子 准教授 牛田 裕也 講 師	我々の日常生活に広く存在する工業製品のデザインについて理論的研究を行うとともに、資源問題、エネルギー問題等々、現在の社会的諸問題を踏まえて「人とモノの適切な関係」を軸に工業デザインの実践的研究を行う。 ● プロダクト・デザインに関する研究、制作及び伝統工芸の産業化等に関する研究 ● モノのデザインを通じた生活環境の構成と総合的なデザインの研究 ● 形や意匠から受ける感覚的表現を具現化するための制作研究

研究領域・担当教員	研 究 指 導 内 容
陶磁器 秋山 陽 教 授☆ 長谷川直人 教 授 重松あゆみ 教 授 森野 彰人 准教授	陶磁素材による創作とその理論を研究する。伝統的な陶磁器制作の研究を踏まえ、新たな視点から技法研究や陶磁素材を用いた表現の理論的研究を行い、現代における陶磁表現の実践的研究を行う。 ● 陶磁的しくみが内包する物質・空間・時間についての諸課題を考察し、今日的創造につなげていく制作研究を指導 ● 陶磁器による表現に関して、焼成や素材の探求という側面を中心に指導 ● 陶磁器による表現に関して、造形と色彩の観点から考察し、創造的作品制作の研究を指導 ● 陶磁器の幅広い技法と表現を「装飾」や、「近代京焼の歴史」の観点から考察し、創造的作品制作の研究を指導
漆工 栗本 夏樹 教 授 安井 友幸 准教授 笹井 史恵 准教授 大矢 一成 講 師	漆を素材とした創作とその理論を研究する。伝統的な漆工制作の研究を踏まえ、塗装方法の比較研究と広く漆を用いた表現の理論的研究を行い、現代的な漆芸作品の創作を行う。 ● 漆造形の可能性と加飾技法に関する制作研究 ● 乾漆技法と様々な素材による漆造形の可能性に関する制作研究 ● 漆造形の可能性と髹漆技法に関する制作研究 ● 漆と木を活かした造形制作と技術・表現に関する制作研究
染織 三橋 遵 教 授☆☆ 藤野 靖子 教 授 日下部雅生 教 授 藤井 良子 准教授	染織に関する創作とその理論を研究する。伝統的な染織制作の研究を踏まえ、新たな視点からの技術研究及び広く繊維を用いた表現の研究など、現代的な染織作品の創造及び理論の研究を行う。 ● 染技法を中心とした創作に関する実技研究 ● 織技法を用いた創作に関する実技研究 ● 型染による創作に関する実技研究 ● テキスタイルデザインおよび染織技法・素材の活用に関する制作研究
産業工芸・意匠 栗本 夏樹 教 授 森野 彰人 准教授 塚田 章 教 授☆ 辰巳 明久 教 授 滝口 洋子 教 授	地域特有の産業活動にふさわしい形態デザイン、装飾デザインの実技と理論を研究する。伝統的な工芸意匠、加飾などデザインの研究とその応用化、産業化についての検証を行い、京都デザイン、日本的デザインなど工芸意匠の創造的研究を行う。 ● 漆工における用途性のある作品制作の研究 ● 陶磁器の幅広い技法と表現を「近代京焼の歴史」「道具」「技術」「生産」の観点から考察し、創造的作品制作の研究を指導 ● プロダクト・デザインの観点から伝統産業領域での意匠・デザインの研究 ● ビジュアル・デザインの観点から伝統産業領域における意匠・デザインの研究 ● ファッションデザイン及びテキスタイルデザインの観点から伝統産業領域における意匠・デザインの研究

研究領域・担当教員	研 究 指 導 内 容
保存修復 宇野 茂男 教 授 高林 弘実 准教授 竹浪 遠 准教授	文化財の保存及び修復の技術とその理論の研究を行う。日本、東洋の絵画を中心に、文化財の模写、復元を含む修復研究の実技的研究を行うとともに、保存修復に関する素材・技法についての科学的研究を行う。 ● 保存修復技術に関して全般的な指導を行うとともに、特に、日本、東洋の絵画を中心とした修復・復元技術に関する実技的な指導 ● 保存修復に関する素材・技法についての科学的研究 ● 東洋絵画の保存修復技法に関する歴史的研究
芸術学 横田 学 教 授☆☆ 三木 博 教 授 吉田 雅子 教 授 加須屋明子 教 授 田島 達也 教 授 礪波 恵昭 准教授 畑中 英二 准教授 竹浪 遠 准教授 深谷 訓子 准教授	芸術現象を対象とした芸術学の理論的研究を行う。芸術現象を対象とした理論的研究、歴史的研究や芸術環境に関する理論的研究、芸術振興に関する研究及び芸術形態に関する高度な理論研究を行う。 ● 美術教育の視点からの芸術の普及、振興の問題の理論的研究 ● 美的人間形成論に基づく教育人間学の研究 ● 工芸史全般の歴史的研究及び染織工芸史の比較論的研究 ● 現代美術全般、中東欧の近現代美術並びに美学・芸術学の研究 ● 日本絵画史全般の歴史的研究 ● 日本彫刻史全般の歴史的研究 ● 日本を中心とする地域における陶磁器の歴史的研究 ● 中国絵画を中心とする東洋美術の歴史的研究 ● 西洋美術史全般の歴史的研究及び西洋近世の美術理論研究

論文指導教員	横田 学 教 授	三木 博 教 授	井上 明彦 教 授
	吉田 雅子 教 授	加須屋明子 教 授	田島 達也 教 授
	上 英俊 准教授	玉井 尚彦 准教授	礪波 恵昭 准教授
	畑中 英二 准教授	竹浪 遠 准教授	深谷 訓子 准教授
	中村 翠 講 師	永守 伸年 講 師	(着 任 予 定)

論文博士について

本学には、博士（後期）課程を経ての学位取得とは別に論文博士の制度が設けられています。

本学の博士（後期）課程を経ない者であっても、本学の博士（後期）課程を修了した者と同等以上の学力を有することが確認され、博士論文の審査に合格した者に対して博士の学位を授与するものです。

なお、博士論文審査に申請する際、博士論文審査手数料として57,000円が必要となります。

また、博士論文審査の申請に先立ち、博士論文の主題等に適合する領域の教員に連絡を取り、論文の出願をしたい旨、相談してください。本学の教員については、本学ホームページ「美術学部・大学院」のページで確認することができます。

〔論文博士に関するお問い合わせ先〕

京都市立芸術大学 教務学生課 美術教務担当

Tel：075-334-2220 Fax：075-334-2345

E-mail：fineart@kcua.ac.jp

〔論文博士以外に関するお問い合わせ先〕

京都市立芸術大学 連携推進課 入試担当

Tel：075-334-2238 Fax：075-334-2281

受験番号

受験番号

出願の種類 (○で囲む)		一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜			
志望研究領域 (○で囲む)		日本画 油画 版画 構想設計 彫刻 ビジュアル・デザイン 環境デザイン プロダクト・デザイン 陶磁器 漆工 染織 産業工芸・意匠 保存修復 芸術学			
氏名	フリガナ	男 ・ 女	生 年 月 日	昭和 平成 西暦	年 月 日 平成 30 年 4 月 1 日現在 満年齢 () 歳
現住所		〒 () 自 宅 TEL () - 携 帯 TEL () - E-mail			
語学受験科目 (一般選抜志願者のみ)		英語 フランス語 から 1 か国語を○で囲む。			
志願する研究領域において、主に行いたい研究について簡潔に述べること。					

履 歴 書 ・ 業 績 書 （書ききれない場合は、別紙〈A4縦長・横書〉に記入）

[illegible]

平成30年度 受 験 者 写 真 票	
京都市立芸術大学大学院美術研究科 博士（後期）課程 美術専攻	
受験番号	
研究領域	
フリガナ	
氏 名	
昭和 平成 西暦	年 月 日生 男・女
(4×3cm) 写真貼付欄 { 点線の枠内に 正しく貼ること。 }	

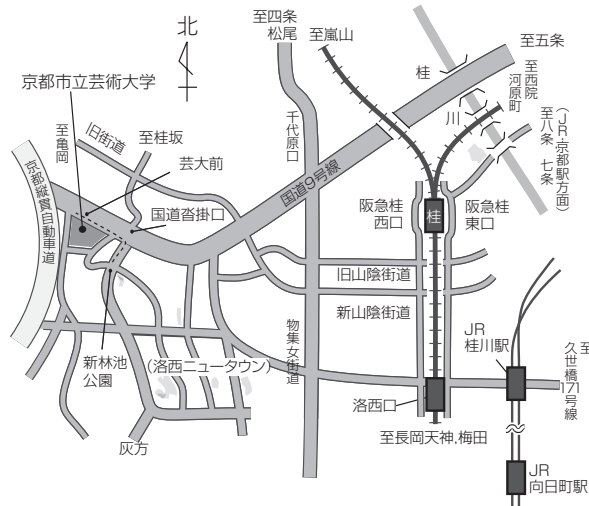
参照用

平成30年度 受 験 票	
京都市立芸術大学大学院美術研究科 博士（後期）課程 美術専攻	
受験番号	
研究領域	
フリガナ	
氏 名	
昭和 平成 西暦	年 月 日生 男・女
(4×3cm) 写真貼付欄 { 点線の枠内に 正しく貼ること。 }	

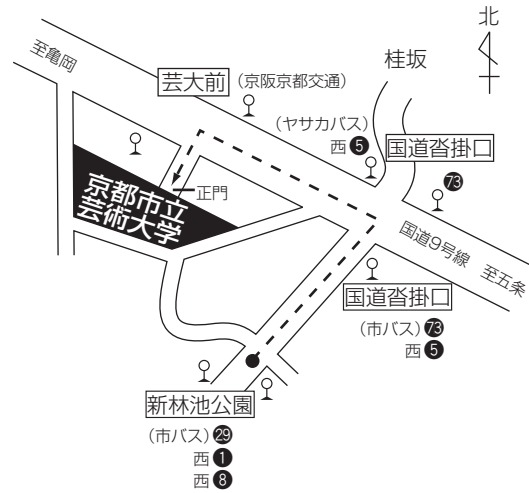
試験会場

京都市立芸術大学（京都市西京区大枝沓掛町13-6）

◆試験会場への略図



◆試験会場周辺略図



◆試験会場への交通機関

平成29年11月1日現在

主要な駅	のりば	バスの種類	乗車時間	最寄りのバス停	バス停から大学までの所要時間
京都駅	C2 のりば	京阪京都交通バス (2・14・28A 系統)	約 45 分	芸大前	徒歩すぐ
	C5 のりば	市バス (73 系統)	約 45 分	国道沓掛口	徒歩約 10 分
阪急烏丸駅	四条烏丸 E のりば	市バス (29 系統)	約 50 分	新林池公園	徒歩約 20 分
阪急桂駅	桂駅東口 ② のりば	京阪京都交通バス (1・2・13・14・25・28A 系統)	約 20 分	芸大前	徒歩すぐ
	桂駅西口	市バス (西 1・西 8 系統)	西 1 は約 20 分 西 8 は約 25 分	新林池公園	徒歩約 20 分
		市バス (西 5 系統)	約 20 分	国道沓掛口	徒歩約 10 分
JR 桂川駅 (阪急洛西口駅経由)		京阪京都交通バス (11A 系統)	約 15 分	芸大前	徒歩すぐ
JR 向日町駅 (JR 桂川駅・阪急洛西口駅経由)		ヤサカバス (1 号系統)	約 25 分	国道沓掛口	徒歩約 10 分

【注意】

- 交通機関の利用については、路線及びダイヤの変更に留意するとともに、周辺の交通事情等を事前に把握し、試験当日、指定の時刻に遅れることのないよう注意してください。
- バスは京阪京都交通の利用が比較的便利です。

平成29年（2017年）11月
京都市立芸術大学 連携推進課 入試担当
〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6
Tel 075-334-2238 Fax 075-334-2281
<http://www.kcuu.ac.jp>

